

十二番連歌合

伊地知文庫  
文庫20  
47



文庫20  
47

十二番連歌合

全

左一

救済法源

くぬたを為しと志はぬ  
梅のしるしを身

湖の月  
心も空ありとい

松山ふふ巖

か  
ぬ  
り

秋  
水



右一 良阿彌

敬すを此凡平  
よのふれむ成

おろお

河ありおちかい

毎おちか

よみ親の文りよ

祐あや華咲



左二

岡阿

玉松の葉お育つたや  
代々の葉

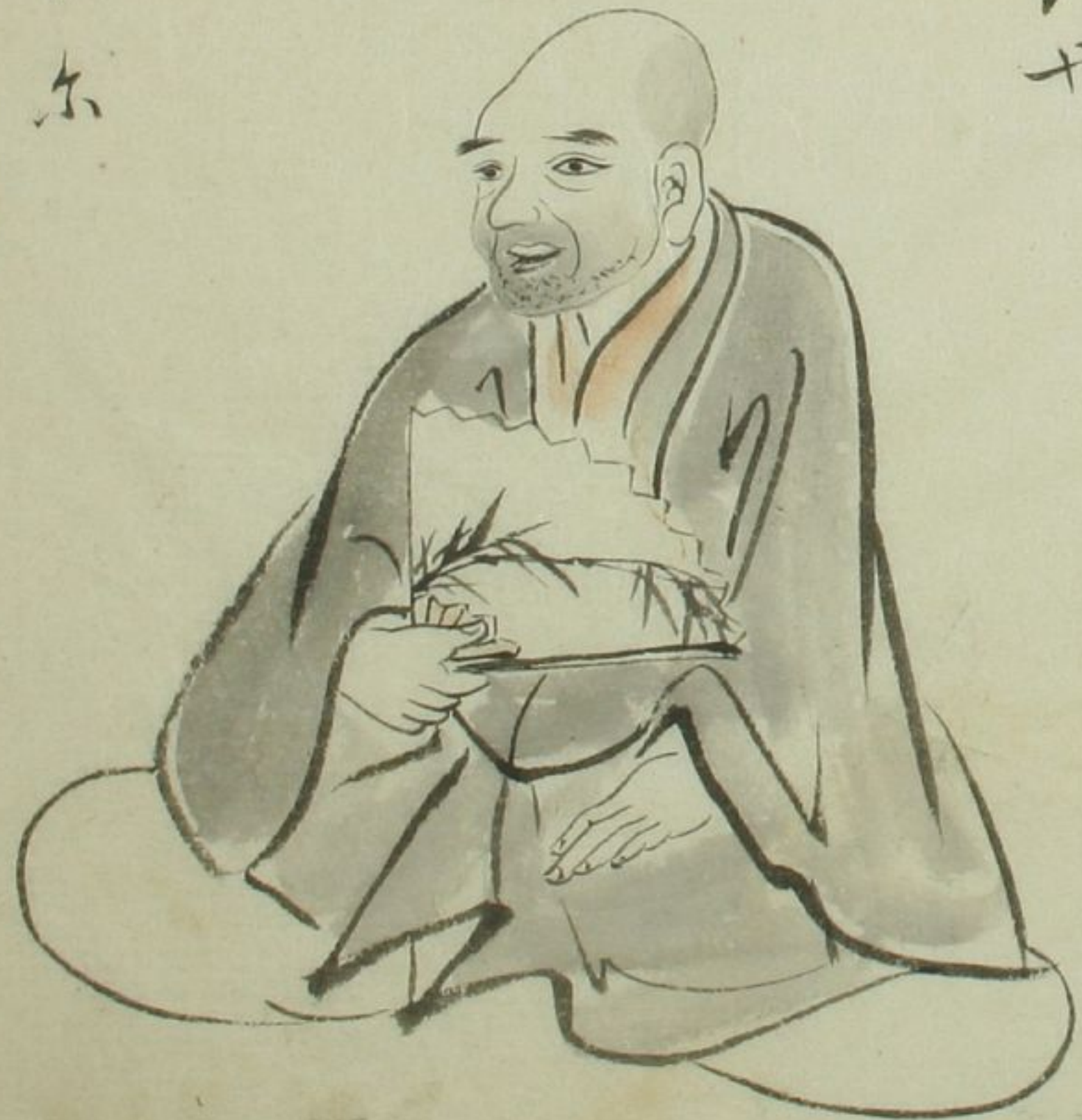
山りさくし

しお母の

雪おふる月

おちか

おちか



右二

林圀庵

時しらぬ籬に

もよや枯の葉

かしつかかり所

秋のさし

木は葉ふく風の

寸儼りしらす 庵



左三

蜷川親當

名も知らぬ小川産さく

河魚の如

いよひにいとる

河らふし如末

解顔の意に

化を能く

とら



右三 能阿弥

東山義政之同朋  
連歌之奉行也

能尔来く云々

こりり如き山分

有ぬより人

夢れ世の中

じさくくふの

昔葉と北ん



左四

推大僧於心敬

日乃御影能尔白一

河一この如

教故口

有るさ一法

誰極一相

此意

集むら



右四 宗 初法源

しるを法と凡とつゝ

一葉可如

いゝと何と云

いゝと彼岸

立田よりうた

之室の山 梅



左五

法眼専順

夜九く火丹を

川より夕涼

若くは

若くは 聲

あはれふ

一歩をうた

梅 咲く



右五 宗徳法師

世に可くさるる  
将両のやうに

心如蒼の法

あはれらるる

ら忠道一人

じふ一 姑岩の梅



左六

平賢盛

遠山に雲あり

あき 月うら

かき 花うら  
しん けい あり

善如集の

いり 拓りて

ね さい





右六 法華行脚

花と葉中々の陽の影  
於るさへ今も

さうもなき名也

海より来る、母

恵一かむのあはれ

ありいれぬふり



左七 夢の良政弘朝臣

月と袖あまの今宵と

一夜の光

あふすしけ

心と母ん子

名風

名

沖



右七 法橋兼載

秋の風くぬるぬる、家  
来昌のな

志す如く

智と素くく久

貞徳と如く玉の

かきくく、神の系



左八

牡丹花

為るよふ来葉色こき山治の如

淡乃如也

枯亦かろ

はるか

都く白くも

思神



右八 櫻井基佐

水多しやうこふの

山多し 巖倉

しる

小多しやう川多しやうす

我高の根如室

しる 夕日る



左九

宗長法師

一也 亦さくおの

西乃如春

あふ人いあ母

字津の山戦

晴弓侍

名多し如里の

夕——く



右九 宗碩法師

夕月東海

寸一水木るる

心より奉るる

明くく空

人其くぬる川

小舟さし拾ふ



左十

宗牧法師

花の美り色は音

とくす夕の難

何れの揺探の

舟の鷹金

くまの船

若葉と波ふ

折しきく



右十 宗養法師

山柴の夕日

此よめく  
くみゆ

壁のくち

波と踏水り

みふ、お川近

神如きりくた



左十一

法橋紹巴

舟や待月とる待

本より、互に

不く

埋木、原

山鳥、雲の

庭

鳴心



右十一 法橋昌叱

落雪の下祈

ねりけし

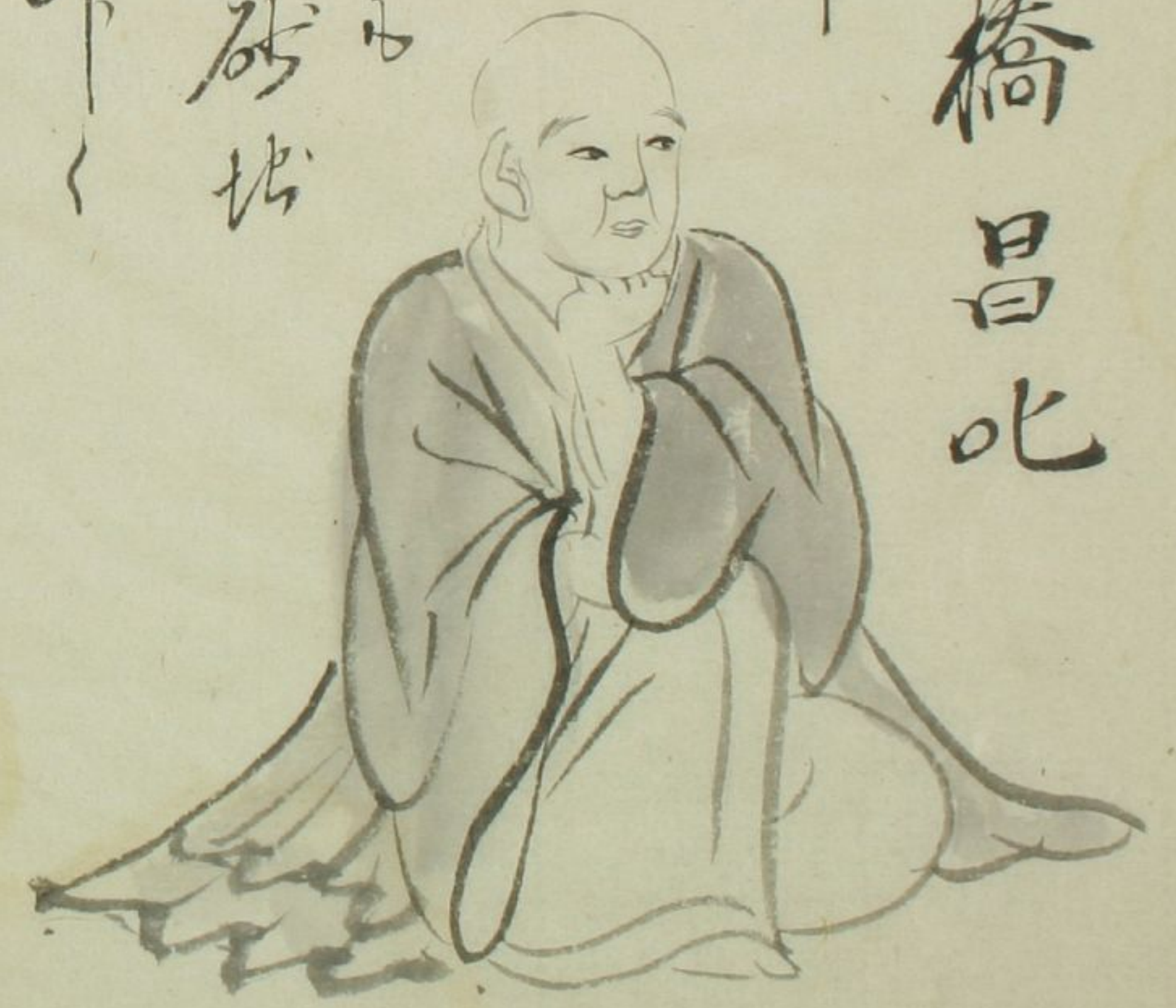
のあ

茂る木は乃也

月如素砂塔

圓水戸と叩く

水鷄中起おろく



左十二

法橋玄侶

山石如若園山

春日の雨

信のあし

心、何し

東に東を夢の

くわん又  
くわん教天



右十二法橋昌縁

不辨以虫

胡蝶可難

結也 三ひひひ  
法橋昌縁

明やら努庵

いより好むと云



連歌心い法紅の法誰人のえらひ

いふふとと知ら法志かハ何好と及向附向

金言妙句と拾い々画書かよ家作者の

像もよぬの総如等三具る法さらの此乃と

法心ら書人といと遊い々々々好り々

弟一書写しあふ伝努

負さ子二乙世曆

和名下一旬

此十二番護句附句云々々傳々を  
車尔一々一画もまの心志い  
なきも一母河にたぬに誰人の換  
々々々々通困ぬ一のりりりりり  
客一畫政也々好世りりりり

寛政元酉年

五月之旬

佐伯壽計

當

元治元甲子年十二月中旬又各 藤菴



